



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月10日

上場会社名 ニチバン株式会社

上場取引所 東

コード番号 4218 URL <https://www.nichiban.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高津 敏明

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 管理本部長 (氏名) 高橋 泰彦

TEL 03-5978-5601

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	33,695	5.6	2,607	8.9	2,699	10.3	1,666	16.9
2019年3月期第3四半期	35,704	1.8	2,862	27.9	3,007	27.4	2,004	26.0

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,650百万円 (42.3%) 2019年3月期第3四半期 2,858百万円 (3.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	80.44	
2019年3月期第3四半期	96.76	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	59,283	37,343	63.0	1,802.20
2019年3月期	60,329	36,480	60.5	1,760.54

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 37,343百万円 2019年3月期 36,480百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		38.00	38.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				38.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,500	6.2	2,900	21.3	3,000	22.3	2,000	37.4	96.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 10「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	20,738,006 株	2019年3月期	20,738,006 株
2020年3月期3Q	16,703 株	2019年3月期	16,653 株
2020年3月期3Q	20,721,338 株	2019年3月期3Q	20,721,377 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想は本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記の業績予想に関する事項は、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表および主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦などの通商問題や日韓情勢の悪化、および2019年10月の消費税増税による影響など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、2019年度より新たな「ニチバングループの理念」を策定するとともに、快適な生活を支える価値を創出し続け、グローバルに貢献する企業を目指した『NICHIBAN GROUP 2030 VISION』実現に向けて、その基盤を構築するための新中期経営計画【ISHIZUE 2023 ～SHINKA・変革～】を進めております。

売上高は、日韓情勢の悪化によるメディカル事業のインバウンド需要の鈍化や、米中貿易摩擦などに起因する企業心理の冷え込みによるテープ事業の需要低迷により、前年同期比5.6%減の336億9千5百万円となりました。

営業利益は、売上高の減少に加え、BCP対応や最適生産体制を目的として物流拠点を再編したことによる移送費等の増加により、販売費及び一般管理費が増加したため、前年同期比8.9%減の26億7百万円となりました。

経常利益は、営業利益の減少により、前年同期比10.3%減の26億9千9百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、これらの影響により、前年同期比16.9%減の16億6千6百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

メディカル事業

(ヘルスケアフィールド)

ドラッグストアを中心とした大衆薬市場におきましては、大手ドラッグチェーンによる経営統合協議が開始されるなど業界再編の先行きの不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、高機能救急絆創膏“ケアリーヴ[®]”シリーズの売上は、認知拡大を目的とした「ケアリーヴ[®]治す力[™]」のテレビCMや「緑と青のケアリーヴ[®]治す力[™]キャンペーン」を開始し、前年を上回りました。しかし、鎮痛消炎剤“ロイヒつぼ膏[®]”シリーズの売上は、日韓情勢の悪化にともなうインバウンド需要の急激な低迷により、前年を大きく下回りました。

(医療材フィールド)

医療機関向け医療材料市場におきましては、医療費削減の傾向により、衛生材消耗品に対するコスト要求は依然として高く、厳しい販売環境でありました。

このような状況のなか、術後ケアをトータルサポートする“アスカブリック[®]”シリーズの売上は、前年を大きく上回りました。また、高透湿性フィルムドレッシング“カテリープラス[®]”シリーズの売上も、低刺激の価値が受け入れられ、前年を上回りました。しかし、フィールド全体としての売上は前年を下回りました。

以上の結果、ヘルスケアフィールドと医療材フィールドを合わせましたメディカル事業全体（海外事業を含む）の売上高は154億6千2百万円（前年同期比5.5%減）、営業利益は39億9千1百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

テープ事業

(オフィスホームフィールド)

文具事務用品市場におきましては、消費税増税、米中貿易摩擦などの通商問題や日韓情勢悪化に対する警戒感から企業心理が一段と冷え込み、オフィス向け・学校学童向け需要ともに減少を続けており、厳しい販売環境でありました。

このような状況のなか、注力しているキッチン雑貨ブランド“ディアキチ[®]ワザアリ[™]テープ”シリーズの売上は、販売促進活動を全国の雑貨店や大型スーパーに対し行ってまいりましたが、需要が伸び悩み、前年を下回りました。「セロテープ[®]」の売上は、「セロテープ[®]小巻カッターつきくまっすぐ切れるタイプ[>]」など付加価値のある製品を大手チェーンに対し販売活動を進めてまいりました結果、前年を上回りました。

(工業品フィールド)

産業用テープ市場におきましては、米中貿易摩擦や中国経済の減速に対する警戒感、世界的な半導体需要の減少を背景に設備投資の先送りが出始め、全体として厳しい販売環境となりました。

このような状況のなか、塗装マスキングテープ製品の売上は、消費税増税の反動により新車生産が減少し、前年を下回りました。また、食品結束用「たばねら[™]テープ」の売上も、台風19号など自然災害による青果物などへの影響があり、前年を下回りました。

以上の結果、オフィスホームフィールドと工業品フィールドを合わせましたテープ事業全体（海外事業を含む）の売上高は182億3千3百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益は13億2千7百万円（前年同期比27.7%増）となりました。

なお、海外事業におきましては、アジアおよび欧州を重点取り組み地域としておりますが、日韓情勢の悪化、中国経済の減速や香港での市民デモなど販売環境の先行きの不透明な状況が続いております。このような状況のなか、高機能救急絆創膏“ケアリーヴ[™]”や止血製品“セサブリック[™]”シリーズなどのメディカル事業製品と、「Panfix[™]セルローステープ」や塗装用和紙マスキングテープなどのテープ事業製品の販売チャネルの構築と製品育成に注力し、マーケティング活動および地域需要に対応した製品開発を進めております。また、ドイツのデュッセルドルフ駐在員事務所にて、欧州地域での販売事業の拡大および成長戦略を推進するため、情報収集と市場調査を実施するとともに、タイ・バンコクの販売子会社NICHIBAN (THAILAND) CO., LTD.にて、さらに大きな需要が見込めるASEAN（アセアン）地域へ高機能救急絆創膏“ケアリーヴ[™]”シリーズの販売拡大に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結累計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ10億4千6百万円減少し、592億8千3百万円となりました。流動資産は1億5千万円の減少、固定資産は8億9千6百万円の減少となりました。

流動資産の減少は、受取手形及び売掛金の減少等によるものです。また、固定資産の減少は、減価償却による有形固定資産の減少等によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ19億9百万円減少し、219億3千9百万円となりました。流動負債は、39億4千9百万円の減少、固定負債は、20億3千9百万円の増加となりました。

流動負債の減少は、1年内返済予定の長期借入金の減少等によるものです。また、固定負債の増加は、借り換えによる長期借入金の増加等によるものです。

純資産は前連結会計年度末と比べ8億6千3百万円増加し、373億4千3百万円となりました。これは利益剰余金の増加等によるものです。

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ5億2千4百万円（6.7%）増加し、83億4千7百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ4億1千1百万円（11.7%）減少し、30億9千9百万円となりました。これは主に売上債権の減少はあったものの、仕入債務の減少、税金等調整前四半期純利益の減少があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ28億5千万円（62.8%）減少し、16億8千5百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、前第3四半期連結累計期間に比べ9億4千1百万円増加し、8億8千9百万円となりました。これは主に短期借入れによる収入が減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の連結業績予想については、米中貿易摩擦などの通商問題や消費税増税に起因する企業・消費者心理の冷え込みに加え、日韓情勢の悪化によりインバウンド需要が引き続き低迷していること、さらに、暖冬などの気候変動、新型コロナウイルスの感染拡大など、先行きが一層不透明な状況が続いております。

このような状況を踏まえ、2019年10月8日に公表いたしました前回の予想を以下の通り修正いたします。

2020年3月期 連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2019年10月8日発表）	百万円 46,500	百万円 3,800	百万円 3,900	百万円 2,600	円 銭 125.47
今回修正予想（B）	44,500	2,900	3,000	2,000	96.52
増減額（B－A）	△2,000	△900	△900	△600	－
増減率（%）	△4.3	△23.7	△23.1	△23.1	－
（ご参考）前期実績 （2019年3月期）	47,417	3,684	3,860	3,193	154.12

（注）以上の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表および主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,228	8,753
受取手形及び売掛金	12,497	11,596
電子記録債権	3,130	3,178
商品及び製品	4,412	4,832
仕掛品	1,782	1,818
原材料及び貯蔵品	1,708	1,751
その他	671	350
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	32,430	32,280
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,306	10,116
機械装置及び運搬具（純額）	8,447	7,901
その他（純額）	3,645	3,417
有形固定資産合計	22,399	21,435
無形固定資産	333	306
投資その他の資産		
投資その他の資産	5,167	5,261
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	5,165	5,261
固定資産合計	27,899	27,002
資産合計	60,329	59,283
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,438	4,270
電子記録債務	5,978	5,604
1年内返済予定の長期借入金	2,000	-
未払法人税等	496	243
賞与引当金	1,149	605
役員賞与引当金	79	58
固定資産撤去費用引当金	-	9
資産除去債務	-	27
その他	3,319	2,692
流動負債合計	17,462	13,512
固定負債		
長期借入金	-	2,000
役員退職慰労引当金	95	90
退職給付に係る負債	2,800	2,957
固定資産撤去費用引当金	-	65
長期預り保証金	3,001	3,004
資産除去債務	309	168
その他	178	140
固定負債合計	6,386	8,426
負債合計	23,848	21,939

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,451	5,451
資本剰余金	4,186	4,186
利益剰余金	25,570	26,449
自己株式	△15	△15
株主資本合計	35,193	36,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	239	239
為替換算調整勘定	△65	△44
退職給付に係る調整累計額	1,113	1,075
その他の包括利益累計額合計	1,287	1,270
純資産合計	36,480	37,343
負債純資産合計	60,329	59,283

(2) 四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	35,704	33,695
売上原価	23,942	22,079
売上総利益	11,762	11,616
販売費及び一般管理費	8,899	9,008
営業利益	2,862	2,607
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	14	15
持分法による投資利益	118	83
その他	53	59
営業外収益合計	189	161
営業外費用		
支払利息	38	30
コストキャップ保証料	-	26
その他	5	13
営業外費用合計	44	70
経常利益	3,007	2,699
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	37	0
受取保険金	124	-
特別利益合計	162	0
特別損失		
固定資産除売却損	36	49
固定資産撤去費用引当金繰入額	-	184
土壤汚染対策費用	213	36
特別損失合計	249	271
税金等調整前四半期純利益	2,920	2,428
法人税等	915	761
四半期純利益	2,004	1,666
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,004	1,666

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,004	1,666
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	△0
為替換算調整勘定	0	0
退職給付に係る調整額	919	△37
持分法適用会社に対する持分相当額	4	21
その他の包括利益合計	853	△16
四半期包括利益	2,858	1,650
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,858	1,650
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,920	2,428
減価償却費	1,737	1,749
貸倒引当金の増減額(△は減少)	-	△1
受取利息及び受取配当金	△17	△18
支払利息	38	30
受取保険金	△124	-
固定資産除売却損益(△は益)	36	49
固定資産撤去費用引当金繰入額	-	184
土壌汚染対策費用	213	36
売上債権の増減額(△は増加)	△507	853
たな卸資産の増減額(△は増加)	△539	△499
未収入金の増減額(△は増加)	620	403
仕入債務の増減額(△は減少)	1,043	△543
未払費用の増減額(△は減少)	△389	△122
未払消費税の増減額(△は減少)	76	△119
賞与引当金の増減額(△は減少)	△585	△544
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	9	△5
災害損失引当金の増減額(△は減少)	△56	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	35	98
その他	241	144
小計	4,753	4,126
利息及び配当金の受取額	17	18
利息の支払額	△42	△35
保険金の受取額	124	-
法人税等の支払額	△1,341	△1,010
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,511	3,099
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△328	△318
定期預金の払戻による収入	328	318
有形固定資産の取得による支出	△4,480	△1,242
有形固定資産の除却による支出	△24	△115
資産除去債務の履行による支出	-	△142
無形固定資産の取得による支出	△90	△80
投資有価証券の取得による支出	△4	△105
その他	65	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,535	△1,685
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,000	-
短期借入金の返済による支出	△2,000	-
長期借入れによる収入	-	2,000
長期借入金の返済による支出	-	△2,000
リース債務の返済による支出	△120	△103
配当金の支払額	△827	△786
その他	-	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	52	△889
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△974	524
現金及び現金同等物の期首残高	7,963	7,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,989	8,347

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	16,364	19,339	35,704	—	35,704
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	88	84	173	△173	—
計	16,452	19,424	35,877	△173	35,704
セグメント利益	4,312	1,039	5,351	△2,489	2,862

(注) 1. セグメント利益の調整額2,489百万円には、セグメント間取引消去173百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用2,316百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	メディカル 事業 (百万円)	テープ 事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	15,462	18,233	33,695	—	33,695
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	83	73	156	△156	—
計	15,545	18,306	33,852	△156	33,695
セグメント利益	3,991	1,327	5,318	△2,710	2,607

(注) 1. セグメント利益の調整額2,710百万円には、セグメント間取引消去156百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用2,553百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。